

<今日の説教のポイント 出エジプト記1章1～14節>

1 神様の祝福は長く続かないということ？

創世記の最後は、ヤコブ(イスラエル 35:10)一族がエジプトの高官となっていたヨセフのもとに身を寄せて救われた話でした。しかし出エジプト記の始まりは、その彼らの子孫がエジプトで奴隷となり苦しんでいる話です。神様の祝福は長く続かないということでしょうか？

2 神様の祝福は続いている。問題は人間の側にあり。

神様の祝福の約束はイスラエルの子孫が増えることであり(創世記 1:28, 28:14)、それが奴隷状態の中でも続いていることを聖書は告げています(7, 9, 12)。つまり、神様はこの状態の中でも約束を果たして下さっているのです。ですから、問題にすべきは神様ではなくて、神様の祝福を妨げようとする人間なのです。そのことを次に考えます。

3 ヨセフのことを「知らない」新しい王。知ることの大事さ。

イスラエル人の数が増えて心配し出したのは、「**ヨセフのことを知らない新しい王**」(8)でした。ヨセフがエジプトにとってどれほど貢献したかを知っていれば、そんな心配はしなかったはずです。この「知る」の原語は、「**アダムは妻エバを知った**」(創世記 4:1)で分かるように、ただ頭で知識として知るだけでなく、もっと深い理解・認識を意味しています。相手を深く知らないで、また知ろうとしないで不安を募らせ、排斥しようとして増々悪い状態になることは今の時代にも起きているのではないのでしょうか。ここで恐いのは、エジプト王だけが悪いのではなく、「**王が国民に警告し**」(9)、「**エジプト人はそこでイスラエル人に重労働を課して虐待した**」(11)のであり、全ての人間がこの非人間的な構造に巻き込まれてしまう点です。どうしたらこのことから逃れられるのでしょうか？

4 創造し、赦し、生かそうとされる神様を「知り」、信じて生きる！

「**過酷を極めた**」(14)イスラエル人の数は、エジプト人の意に反してさらに増えたのです。人間の知恵の浅はかさを思わされると共に、神様の約束がこういう仕方を実現されていくのだということを知られます。この神様に従い行く先に出エジプト、さらには約束の地、さらには救い主という恵みが用意されていたのです。造って下さったからこそ、生かして下さる神様。この神様を信じて生きる道が与えられているのです！